

BPA について知るべき何をカナダが知っているか



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2020年7月20日 in [SAFETY](#)

カナダ政府は、10年以上にわたって科学的評価を通じてビスフェノール A(BPA)の安全性を評価してきました。2008年には早くも、カナダの化学物質管理担当機関(カナダ環境省およびカナダ保健省)は、BPA のヒト健康と環境に対する予備評価結果を含む[詳細レポート](#)を共同で発表しました。

この評価の最終結果は、同じく2008年にリリースされた[ファクトシート](#)で示されました。ヒト健康に関しては、ファクトシートには次のように記載されています。「現在の研究では、一般大衆が心配する必要がないと言う結果が示されました。一般に、ほとんどのカナダ人は極低レベルのビスフェノール A に曝露しているため、健康上のリスクはありません。」

低用量 BPA での潜在的な健康影響が示唆された一部の動物実験での不確実性が生じて以来、カナダ政府は、BPA 曝露が新生児や幼児にどのように影響するかに焦点を当ててきました。乳児の BPA 曝露は食事によるものと予想されたため、哺乳瓶や乳児用粉ミルク缶による曝露を最小限に抑える方法を研究することに重点が置かれてきました。

2018年のカナダ保健省による[リスク管理パフォーマンス評価報告書](#)で報告されているように、このアプローチは非常にうまくいきました。哺乳瓶および粉ミルクからの乳幼児への曝露は完全に排除され、BPA 曝露は 96%減少しました。

同様に、2008年のファクトシートでは、BPA が環境に入り、時間の経過とともに、環境中の生物に害を及ぼすおそれのあるレベルまで増加する可能性があるとして報告されています。その結果、カナダ政府は環境衛生を保護するためにリスク管理アプローチを設計し、続いて水生生物を保護するために連邦環境品質ガイドライン(FEQG)を開発しました。

最近のリスク管理対策の有効性に関する報告書に示されているように、このアプローチも非常に成功しています。報告にあるように、「現在の地表水中のBPA濃度はFEQGを遥かに下回っており、概して時間の経過とともに減少しています。」そして「このため、現時点では地表水中のBPAのさらなるリスク管理は必要ありません。」さらに、BPAの濃度測定値は地表水のFEQGを遥かに下回っているため、「現時点では、これ以上の地表水のサンプリングは推奨しません。」

底質についても同様に、「底質の環境データからも、それ以上のリスク管理は必要ないという結論を裏付けられています。」2012年から2018年の間に採取した堆積物サンプルのごく少数(1%)が底質のFEQGを超えたため、底質中のレベルが引き続き低下していることを確認するために、さらなるモニタリングを推奨しています。

全体として、最近のリスク管理パフォーマンス報告でもたらされた結果は非常に楽観的な材料になります。ヒト健康と環境の双方に対し、曝露レベルは非常に低いレベルまで減少しており、害を及ぼすリスクはほとんどまたはまったくありません。